

希少種を含む数十種類のトンボが飛び交うトンボたちの楽園

体験学習等のイベント内容

・「弘前だんぶり池」は、市街地から5kmほど離れた里山地域にあり、サワガニやカジカなどが生息する赤沢・大畑沢という二本の清流に囲まれた休耕田を手作業で再整備して作られました。

・10枚の田んぼは、それぞれ水深や形態を変化させた池とし、生物多様性の確保に努め、その結果、だんぶり池では、トンボのほかにも、メダカやトウホクサンショウウオ、ゲンジボタルやヘイケボタルなどが見られるほか、ドジョウやカエル類もたくさん生息するため、カワセミ等の鳥類も見ることができると、多様な生きものが生息する空間となっています。

・ここでの学びは、教科書だけの学びと違い、やがて大人になっても忘れられない体験となって残ることと思います。



取組主体の紹介

2002年2月に市民・事業者主体の自立的な任意組織「ひろさき環境パートナーシップ21（HEP21）」が設立され、同年3月弘前市との間で「環境パートナーシップ協定」を締結し、以後、市民・事業者・行政のパートナーシップにより、「自然環境の復元」を具体化するため、「弘前だんぶり池」（だんぶり：津軽弁でトンボのこと）づくりを始めました。貴重なトンボ等が残っていた休耕田を弘前市が買い上げ、協定を締結しているHEP21の市民・事業者が中心となって、ボランティアで池のデザインや整備活動等を行い、2003年10月に開所式を開催しました。

イベントに参加するには

所在地 青森県弘前市大字坂元字赤沢1番地
申込方法 「弘前だんぶり池カレンダー」を毎年発行し、だんぶり池における作業活動日を周知していますので、その日であればいつでもどなたでも参加可能です。カレンダーについては、弘前市のホームページをご覧ください。HEP21事務局へお問い合わせ願います。
開催時期 4月～11月上旬
弘前市HP：
<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/partner21/partner21.html>



田んぼの学校

・岩手県／奥州市
・開催時期：春～秋（各種農作業時期）

岩手大学の学生と地元の方々が、趣向を凝らして自然環境の大切さをお伝えします！

体験学習等のイベント内容

自然環境の大切さや維持管理の重要性を農業体験を通じて理解してもらうために活動しているのが『田んぼの学校』です。

豊かな自然景観と生物多様性が残る内田ため池を中心に、単体ではなく、年間を通じて各種農作業のイベントや環境保全学習会を、地域住民の参加・協力をいただきながら行うことにより、自然環境の大切さのみならず、普段当たり前に使っている機械の有難みなどを知ることができます。

年間のイベントスケジュール（例）

田ぶち	4月17日（水曜日）
代かき	5月12日（日曜日）
田植え	6月2日（日曜日）
草刈り（1）	7月7日（日曜日）
環境保全学習会	8月6日（火曜日）
草刈り（2）	8月6日（火曜日）
草刈り（3）	9月1日（日曜日）
稲刈り	10月6日（日曜日）
稲こき	10月18日（金曜日）
収穫祭	11月23日（土曜日）



取組主体の紹介

田んぼの学校活動場所である胆沢若柳の内田ため池と周辺の小水田は、ほ場整備の際に生態系保全の視点から現況保全され現在に至っています。

農作業を通じて自然環境の大切さなどを学ぶことを目的に、岩手大学のため池保全サークル (Ike-ic) が中心となり、環境学習を行うとともに、地域住民の参加、ご協力をいただきながら昔ながらの農法によるもち米栽培を行っています。

イベントに参加するには

実施時期や実施内容等については以下の窓口までお問合せ下さい。

奥州市農地林務課（農村整備係）
〒023-8501
岩手県奥州市水沢大手町一丁目1番地
Tel：0197-34-1762
Fax：0197-24-1992



おおさき生きものクラブ

・宮城県／大崎市
・開催時期：通年

自然・農・食・景観・多種多様な地域資源が織りなすフィールドミュージアム（世界農業遺産）

体験学習等のイベント内容

・大崎地域の1市4町は、平成29年12月に「世界農業遺産」に選定されました。本地域は、江合川、鳴瀬川の流域に広がる低平湿地を水田利用することで、水田農業地帯として発展してきました。その一方で、東北の太平洋側に特有の冷たく湿った季節風「やませ」による冷害や、山間部の急勾配地帯から平野部の緩勾配地帯に遷移する地形的要因による洪水、渇水が頻発する地域でもあります。しかし、本地域の農家は、厳しい自然環境下で「水」の調整に様々な知恵や工夫、多くの苦労を重ねながら、稲作を中心とした水田農業を発展させ、「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。

・また、水田や水路、水田の中に浮かぶ森のような屋敷林「居久根」のつながりは、豊かな湿地生態系を育み、多様な動植物の生息空間と独特の農村景観を形成しています。これら、農業及び農業が育む文化、生物多様性、美しく機能的な農村景観が一体となった農業システムそのものが、未来に残すべき「生きた遺産」です。



おおさき生きものクラブの活動風景（写真提供：大崎市）

取組主体の紹介

おおさき生きものクラブは、生きもの観察を中心とした体験型環境教育プログラムです。小学1年から参加できる一般プログラムと、詳しく学びたい小学4年生以上が参加できる専門プログラムがあり、各協力団体が持ち回りで主催者となり、毎回内容の異なる様々なイベントを開催しています。

イベントに参加するには

本イベントは、大崎市と市内のNPO法人等が協力して大崎市内に在住する子供たちを対象に企画しているものですが、詳細については、各協賛団体までお問い合わせください。

○NPO法人 蕪栗ぬまっこくらぶ

(TEL:0229-38-1401 FAX:0229-38-1402)

○NPO法人 シナイモツゴ郷の会

(事務局：TEL 080-1832-8437)

○NPO法人 田んぼ (TEL:0229-39-3212)

○NPO法人 鬼首山学校協議会 (TEL:0229-86-2058)

○NPO法人 エコパル化女沼

(事務局：TEL 0229-86-2058)

○大崎自然界部

(TEL:0229-22-1141 FAX:0229-22-1404)

○Social Academy 寺子屋 (TEL: 0229-25-6607)



「居久根」
(写真提供：大崎地域世界農業遺産推進協議会)